

第1回リニア中央新幹線静岡工区有識者会議

1 日時 令和2年4月27日(月) 18:00~20:00

2 議事

- 1) リニア中央新幹線の概要と大井川水資源問題に係る主な経緯
- 2) 静岡県中央新幹線環境保全連絡会議専門部会における議論
- 3) トンネル湧水の戻し方等に関する JR 東海からの説明

3 主な意見

- ・ 県の専門部会でも、無理な要求ではなく、根拠となるデータなどを JR 東海に求めそれに基づいて議論を進めてきた。会議このでも、JR 東海には迅速なデータ提供などをお願いしたい。
- ・ リスクマトリクスなどのリスク管理についての考え方については、県の専門部会でも指摘しお願いしている。JR 東海には、科学的な資料等に基づき議論できるよう準備願いたい。
- ・ 金子社長の発言からは、アセスを終えたから事前の対策はこれ以上検討しないという姿勢が見て取れる。何か出たら補償しますというのは昔の考え。認可されても調査を進めルート変更した事例もある。どのようなリスクが考えられ、それが起きたらどう対応すべきかを考え見直す仕組み作るべき。
- ・ トンネル湧水が流出すれば水系内の水量は減少するのが当たり前である。それが増えるというそんなおいしい話はない。上流で地下水が減少すれば下流にそのつけがまわる。
- ・ 地域の方々が、どういう手法や結果が得られれば納得するのかを聞いてみたい。
- ・ 概論的なデータだけでは議論できない。中下流域の状況を把握しておくことが重要である。
- ・ 流出量の計算の根拠が不明確である。過去の南アルプスでの工事などのデータも活用しているのか詳しく説明願いたい。
- ・ 金子社長の言わんとすることは理解できるが、この会議は、あくまで科学的・工学的に議論する場であり、制度などを議論する場ではない。工事の進捗に応じて異常が出たときはどう対応するのか、検証する仕組みを作るべきである。今回の説明資料では、科学的議論をするにはあまりにもデータ等が不足している。次回以降は検討できる資料を用意して説明願いたい。

第2回リニア中央新幹線静岡工区有識者会議

1 日時 令和2年5月15日（金）18:00～20:00

2 議事

1) はじめに

2) 論点整理

静岡県からも、科学的根拠に基づく対話における静岡県とJR東海の認識の違い、第1回有識者会議における委員の御発言に対する県の見解について、説明を行った。

3) 今後の進め方

3 主な意見

- ・トンネル収支モデルを使ってトンネルへの湧出量を算出するに当たって、使った具体的なデータなりを見せていただきたい。
- ・工事に伴う対策、データをどう出すとか、最終的に環境をどう守るといった全体のストーリー、大きな流れを示してほしい。
- ・河川流量が渇水期で減ったときに、雨がぜんぜん降らなくても流れている既定流量が減るか、減らないかというのがトンネルの掘削の大きい問題。そういう議論をしていかないと、河川の全体の流れている量を議論しても、それは雨が降ったときの河川流量の議論の話なので、次元が違う話だと思う。
- ・一番分かりやすいのは地下水がどれだけ下がるかということ。その計算結果を、図にしてオープンにしていきたい。
- ・まず、相手の理解力がないから、わかってもらえないので、何とか知識をつけてもらうようにしようというのはあまり得策ではない。相手は何を知りたがっているのか、何を不安に思っているのかというのを理解するのが大事。
- ・示しているのが確定的であるかのように話をして、だから大丈夫というのは前近代的。いろいろな不確実性を想定して、どうやって全体として被害を減らそう、あるいは、できるだけ事前にリスクを下げて、何かあったときには万全な体制をやろうとしているのかを知りたいのではないか。
- ・情報の前提とか、限界とか、判断の仕方とかを見える化しておく。共通の認識のうえで、これからの検討を始めていくのが必要。

- ・河川流量のみで議論しているか、地下水位の解析が見えないので、地下水位のデータを見せてほしい。
- ・場がどういう場であって、どういう流動の状況になっていてなどの現場の認識も非常に重要。
- ・静岡県の資料は、わかりやすく整理されている。どこが問題であったかわかった。わかりやすく作成してほしい。
- ・トンネルにより、沢がどうなるとか、見方をもっと広げないといけない。

1 日時 令和2年6月2日（金）18:00～20:00

2 議事

- 1) 大井川水資源利用への影響回避・低減に向けた取組み(素案)について
- 2) 今後の進め方

3 委員からの主な意見

- ・今回の資料は、大井川流域の住民から見ると、JR東海の発想で作った資料と言わざるを得ない。国土交通省HPを通じて、大井川流域の住民の皆さん、ひいては国民の皆さんにデータを公開するのだから、**相手方が求めるような議論を進めていかないといけない。**
- ・バックグラウンドデータがどういう意味を持っているのかということをもっと丁寧に説明すべき。
- ・この水収支解析で、どの沢で影響が出るのか、大きく出るのか小さく出るのかも含めて、明示していただいて、**その観測体制をきちんと重点的にやるという方針を示すことが、住民の安心感に繋がる。**
- ・前回のときにも言ったが、フォローアップの仕組みというのを作り上げて工事を始めていくという考え方を取り入れていただきたい。
- ・現状、既存のデータに基づいてどう位置付けているのか、どう考えているのかというようなことを速やかに整理していただく。
- ・トンネルを掘るに当たって何が起こるのかということ想像していただきたい。その想像したことを、こういう場所で、専門の方とも議論をしていただければいい。
- ・市民に向けて分かりやすくというのが一番大事である。この会議は事業を着実に進めるということもあると思うが、**地域の方々に十分理解していただきながら、問題点をいかに解消するかということである。**その考え方、思いを、この資料を作ったJR東海に語っていただきたい。
- ・今回の資料は、私どもがトンネルを掘ることと、地下水への影響がどう懸念されるかということ、できるだけ時系列で表すことで、市民の方に分かりやすくできないかということ在意図してまとめたもの。(JR東海)
- ・私が想像するに、下流の方々は、何かあったときの補償が欲しいという気持ちではなくて、今までと同じように水を使いたいという考え方を持っている。そういう気持ちを汲んでいただいて、**何が不安なのかと**

いうことをしっかりと理解していく必要があるのでは。

- ・今まで話題になっていなかったが、委員からの課題は重要である。JRには議論できるよう準備いただきたい。
- ・JRは、沢の性質について、地下水が湧き出している沢と表流水だけのものなど、ある程度把握しているはず。それを見せていただきたい。こういう前提で解析すればこういう結果になるという説明をすれば納得を得られるはず。
- ・実際にモデルの精度を上げていくための下地として、透水係数の初期条件、計算、解析、用いた数値などをJRに説明をしてもらいたい。
- ・専門部会の頃から何回も尋ねていることである。どういう考え方でやったか、具体的な数値や初期条件を出していただくことが出発点。
- ・河川の流れの状況と地下水位は一定の関係を持っているが、これだけの情報しかない中で、地下水流動モデルを使うことによって、どれだけの新しい情報を得られるか分からないところがある。
- ・水収支のモデルはブロックそのものの形は変えられないが、ブロックに入れる地質や透水係数の情報は、入れ替えて計算をやり直せるはず。情報がある程度集まった段階で、流量やどこの沢が枯れるかなどの将来予測の見直しや再計算していくというフローをつくり、住民に示すことが重要ではないか。
- ・アップデートを続けていけば、住民も安心するので、ぜひお願いしたい。
- ・パイロット的なトンネル（導水路など）を掘り、どうなったらどういう対応をするか、フローで示し、検証しながらモデルの精度を高めていく。
- ・地質調査でJR東海はボーリングをしているので、ボーリング地点をマップ上に示すとよい。ボーリングを掘るときの坑内水位の変化は、地下水の分布状態の把握につながるので、そのようなデータを見える形にいただきたい。
- ・モデルをアップデートすることは重要だが、依然として、十分な質の高いデータが取れるわけではないので、ミスリーディングとならないよう、注意が必要。
- ・現場を見れないかわりに、せめて写真を用意してほしい。**不確実性が減ることにより、皆さんの心配をどの程度減らせるか、議論した方がよい。**
- ・JRは既存のデータを集めているので、地下水や河川の水量、雨量のデータなどを使って、この地域にどのような影響を及ぼすのか、説明の機会を作してほしい。
- ・だいぶ共通認識ができてきたが、まだ不十分なところが多い。